

第 63 回地域農林経済学会大会のご案内

2013 年 6 月 13 日

地域農林経済学会

第 63 回地域農林経済学会大会を下記の要領で開催いたします。特別シンポジウムの開催も予定しておりますので、会員の皆様はもとより、非会員の皆様もぜひご参加ください。

1. 期 日 2013 年 10 月 18 日（金）～20 日（日）

2. 日程および会場

2-1. 開催地：岡山大学

住 所 〒700-0084 岡山市北区津島中 1-1-1 岡山大学農学部

連絡先 小松泰信 Tel 086-251-8367 E-mail komatsu「@」okayama-u.ac.jp

横溝 功 Tel 086-251-8368 E-mail yokomizo「@」okayama-u.ac.jp

2-2. 地域農林経済学会大会日程（例年と開催日程が異なります。ご注意ください）

【第 1 日】 10 月 18 日（金）特別シンポジウム（大学院自然科学研究科棟大講義室 13:00 開始）

【第 2 日】 10 月 19 日（土）大会講演①および個別報告（一般教育棟（A 棟）A41 室他。
なお、同じ建物にて他学会も開かれております。お間違いのないように、ご注意ください）

- 個別報告① [9:30～12:00]（A31,32,34,35,36（予定））（受付開始 8:30）
- 会長挨拶 [13:00～13:10]（A41）
- 大会講演① [13:10～14:30]（A41）
- 個別報告② [14:45～16:45]（A31,32,34,35,36（予定））
- 総会 [17:00～18:00]（A41）
- 懇親会 [18:30～20:30]（大学生協「マスカットユニオン」3F）

【第 3 日】 10 月 20 日（日）大会講演②，個別報告，大会セッション（一般教育棟（A 棟））

- 個別報告③ [9:00～12:00]（A31,32,34,35,36（予定））
- 大会講演② [13:00～14:15]（A41）
- 大会セッション [14:20～17:00]（A36, 37, 41（予定））

【その他】 10 月 18 日（金）

編集委員会 [16:30～18:00]（自然科学研究科棟・小会議室（2F））

理事会 [18:00～20:00]（自然科学研究科棟・第 1 講義室（2F））

10 月 19 日（土）

個別報告優秀賞審査委員会 [12:00～13:00] 一般教育棟（A 棟）・小会議室（2F）

（同打ち合わせ会議 [9:00～9:30]）

（注）大会会場の地図・交通案内等は、本文末尾をご参照ください。

2-3. 参加費用等

- ・大会参加費：普通会員3,000円，非会員4,000円，学生会員・学生非会員1,500円
- ・懇親会費：普通会員5,000円，学生会員2,000円（懇親会は、19日の総会終了後に開催されます。懇親会の参加申し込みについては、下記7（3）をご参照ください）

3. 特別シンポジウム「次代を担う若手研究者の研究展望」

10月18日（金）[13:00～16:30]

ファシリテーター 小松泰信（岡山大学）
駄田井久（岡山大学）「社会調査におけるデータ収集と解析の視角」
小松知未（福島大学）「地域農業の再生と農業経営研究」
中塚雅也（神戸大学）「農村地域の人材育成と協働的アプローチ」
片岡美喜（高崎経済大学）「農業・環境教育のこれから」

4. 大会講演

10月19日（土）[13:10～14:30]

10月20日（日）[13:00～14:15]

（趣旨）方法論の絶えざる検討は社会科学の生命線である。学会にとっては、そのレゾンデートルを確認する作業がまさに方法論の検討にほかならない。地域農林経済学会は、メゾ領域としての「地域」に根拠をおくことを表明し、その観点からこれまでもいくつかの成果をあげてきたが、必ずしも十分というわけではない。その上、TPPへの交渉参加表明やRCEP（いわゆるアジアFTA）の交渉開始、国内的には道州制への動きなど、社会経済的枠組みが大きく変わりつつある。

こうした状況の下で、本学会が基盤としている農業・農村地域において何が起きているのか、どのような方向に向かっているのか、学会として何を明らかにすべきなのかを追究・検証することは優れて現代的な課題であるとともに、方法論の再検討を迫ってくる課題でもある。こうした大きな問題意識の下に、今期の企画担当理事は2年間にわたる共通テーマを「グローバル・ローカルの両面からみた食農資源問題」として設定し、本学会のレゾンデートル（メゾ領域）に関する議論を喚起したいと考えた。

本年の岡山大会では、問題の動向と政策的枠組みに関して共通の認識を持つために、①日本の農村地域政策の方向性、および②国際的にみた資源・食料問題の動向の二つの基調講演を設定した。①については、農村地域のあり方に大きな変更を迫るような政策的枠組みが次々に登場している中で地域から見たときに何がポイントになるのか、それへの対応方向をどう考えるのかといった点が主要な内容になる。②については、食料生産の基礎的資源である土地と水の確保をめぐる繰り広げられている、大規模海外農業投資の国際的な動向をおさえると同時に、この問題と日本の農村地域がどのようにかわるのかを検討する。

報告者と報告タイトル（仮題）

小田切徳美（明治大学） 「日本における農村地域政策の新展開」
池上 甲一（近畿大学） 「大規模海外農業投資による食農資源問題の先鋭化とアグロ・フード・レジームの再編」

5. 大会セッション

10月20日(日) [14:20~17:00]

報告者、報告テーマなどが変更になることがあります。詳細は学会ホームページでご確認ください。

第1セッション：食の生産と消費を結ぶ倫理の現在と未来：思想と実践から

コーディネーター・座長：秋津元輝（京都大学）「食の倫理における思想と実践」

立川雅司（茨城大学）「Civic Food Networks 論：フードシステムを消費者／市民の立場から再構築する」

波多野豪（三重大学）「CSA はなぜ注目されるのか：産消提携と比較して」

辻村英之（京都大学）「フェアトレードと産消提携をつなぐ倫理的基盤：タンザニア・遊佐町と私たち」

今泉晶（京都大学大学院）「なぜ自家採種を続けるのか：ある農家における『食べもの』と人との関係」

竹之内裕文（静岡大学）「『食』を問いなおす：いのちの次元への下降」

第2セッション：六次産業化を駆動する農企業ネットワーク—その展開と可能性—

コーディネーター・座長：小田滋晃（京都大学）

長命洋佑（京都大学）「六次産業化の進展と次世代を担う農企業ネットワーク」

室屋有宏（農林中金総合研究所）「地域全体の活性化につながる『地域の六次化』の必要性」

川崎訓昭（京都大学）「農企業ネットワークをめぐるガバナンスとコンフリクト」

パネルディスカッション「六次化は地域に何をもちたらすか？」

座長：小田滋晃（京都大学）・長命洋佑（京都大学）

パネラー 川崎訓昭（京都大学）、室屋有宏（農林中金総合研究所）、山田敏之（こと京都株式会社）、八木隆博（株式会社 博農）、小根澤貴宏（農林水産省近畿農政局）

第3セッション：農林業センサスの分析力

コーディネーター：藤栄剛（滋賀大学）・仙田徹志（京都大学）

座長：石田正昭（三重大学）・仙田徹志（京都大学）

小田切徳美（明治大学）「農林業センサスをめぐって—2015年センサスの検討を終えて—」

石田正昭（三重大学）「農地基本台帳、農業センサスを利用した「耕脈」調査の有効性」

伊庭治彦（神戸大学）「集落営農と農林業センサス」

駄田井久（岡山大学）「農業センサスを利用した地域性の分析」

藤栄 剛（滋賀大学）「農業経営者の交代と経営構造・行動の変化」

6. 個別報告

10月19日(土) 9:30~12:00 (個別報告優秀賞対象報告)
14:45~16:45
10月20日(日) 9:00~12:00

- ①個人・連名報告は1件につき、30分(報告20分、質疑応答10分)を予定しています。
- ②筆頭報告者には、会員の資格が必要*です。非会員の方には、入会関係書類を送付しますので、至急、学会事務局までお申し出ください(学会HPからのダウンロードも可能です)。また、同一筆頭報告者による報告は一報告に限りますので、ご注意ください。
*個別報告の申込期限(8月20日(火))までに、入会金と年会費の納入が必要です。
- ③個別報告の申し込み方法、プレゼンテーション用ファイルの送付、個別報告論文投稿等については、【別紙】の1を参照してください。特に、インターネット経由に移行しているため、十分に注意してください(個別報告論文の投稿についても変更があります)。
- ④2010年度より、若手会員の学会個別報告への積極的参加の奨励および顕彰を目的として、個別報告を行う若手会員(2014年4月1日時点で37歳未満の会員)で、個別報告優秀賞に応募する方を対象に審査を行い、優れた報告に対して個別報告優秀賞を授与することになりました(表彰規定、審査手続きの詳細については、『農林業問題研究』第46巻1号(2010年6月号)を参照のこと・近日中に学会HPに掲載の予定)。若手会員の積極的な応募を期待します。なお、個別報告優秀賞応募の方法については、【別紙】の2を参照してください。

7. その他連絡事項

(以下、本文中のメールアドレスの「@」は、「」をはずして宛先としてください。)

(1) 宿泊について 事務局では斡旋いたしませんので、各自でご予約ください。

(2) 昼食について

10月19日(土)、20日(日)とも、大学生協の食堂、大学周辺にある食堂やコンビニエンスストアが営業しております。

(3) 懇親会の申し込みについて

懇親会への参加を希望される方は、下記の要領でe-mailにて、小松泰信(岡山大学)までお申し込みください。なお、会費は当日、受付にてお支払いください。

宛 先 : komatsu「@」okayama-u.ac.jp

メールの件名 : 懇親会申し込み

メールの本文 : ①氏名、②所属、③連絡先住所、④連絡の取りやすい電話番号

申 込 期 限 : 10月11日(金)

そ の 他 : 複数名で、一括してお申し込みいただいても結構です。

(4) 各種会議場所について

10月18日(金)、理事会は自然科学研究科棟・第1講義室(2F)、編集委員会は同研究科棟・小会議室(2F)にて行います。10月19日(土)の個別報告優秀賞審査委員会は一般教育棟(A棟)・小会議室(2F)にて行います。

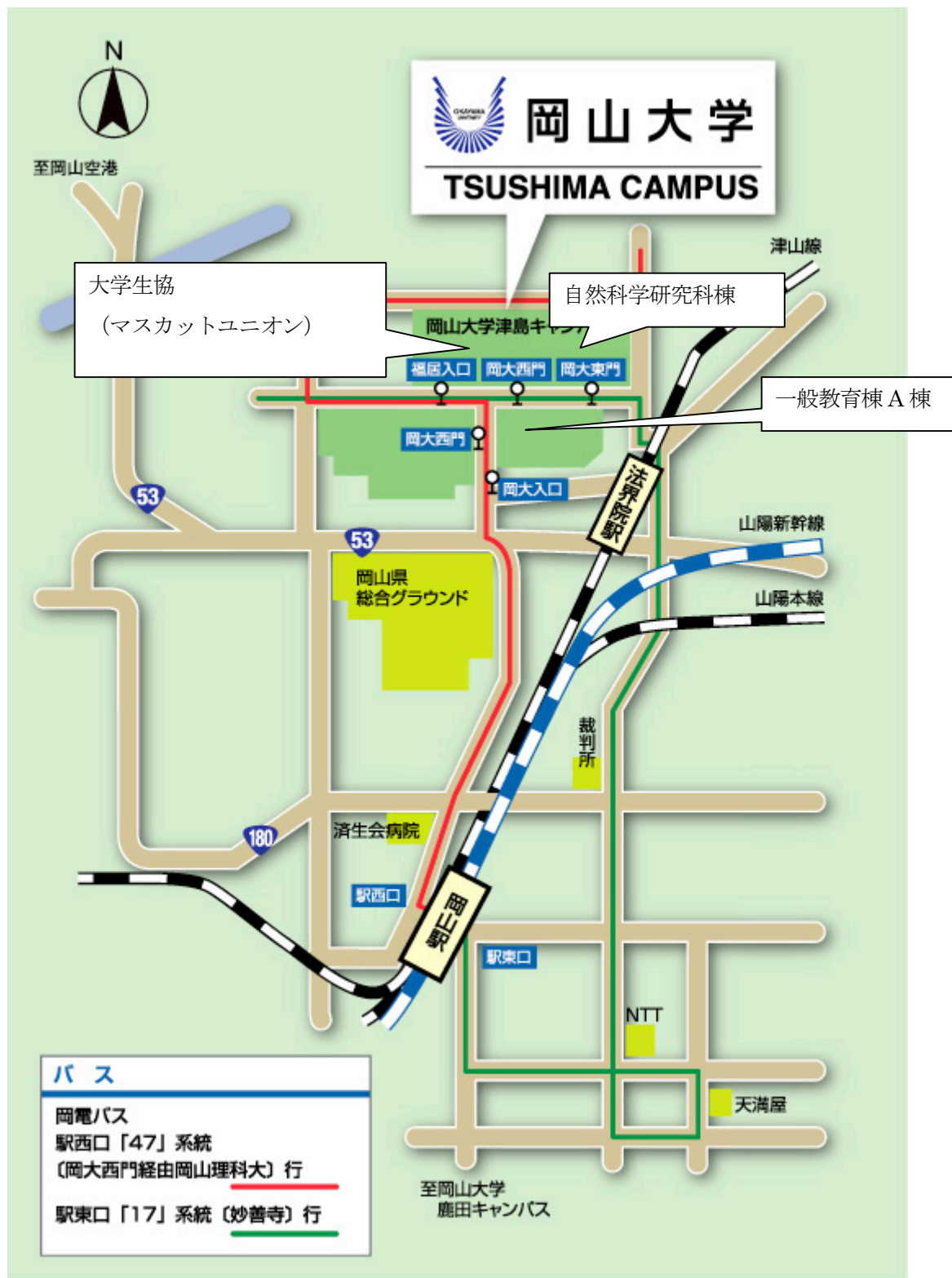
(5) 岡山大学への交通手段について

(詳しくは、http://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access_4.html をご覧ください)

JR 岡山駅:西口広場 2F タクシー乗り場から約 7 分

岡山駅西口バスターミナル 22 番乗り場から【47】系統「岡山理科大学」行きに乗車

「岡大西門」で下車 (※ 所要時間約 7~10 分)



【別紙】

1. 個別報告の要旨原稿の様式・申し込み方法，プレゼンテーション用ファイルの送付，個別報告論文投稿に際しての注意事項などについて

(1) 個別報告の要旨原稿の様式

- ① 要旨原稿のフォーマットは，本学会HP (<http://a-rafe.org/>) の「研究大会」－「個別報告－申し込み要項」にある報告要旨様式（作成要領・見本）を参照して下さい。
- ② 要旨原稿は，ワープロで作成したファイルを，必ずPDFファイルに変換して下さい（A4サイズ，1枚）。
- ③ ファイル名は，下記の事例を参照して下さい。

例) (単独の場合) ○○大学・農経花子.pdf
(複数の場合) ○○大学・農経花子他.pdf

また，所属機関の書き方は，下記の事例を参照して下さい。

例) (社会人の場合) ○○大学
○○研究所
(大学院生の場合) ○○大学大学院
(学部学生の場合) ○○大学△△学部
(日本学術振興会特別研究員の場合) 学振特別研究員・○○大学

(2) 申し込み方法

- ① 個別報告の申し込みおよび要旨原稿ファイル（PDFファイル）の提出は，2010年度からインターネット経由で行うことになりました。
- ② 当該URLは，<<https://business.form-mailer.jp/fms/c83d154622951>>です。
パスワードを聞いてきますので，「20130820」と入力してください。
(当該パスワードは，極めて重要ですので，くれぐれも管理にご注意下さい。)
なお，本学会HPの「研究大会」－「個別報告－申し込み要項」にも上記アドレスをリンクしていますので，そちらを利用して頂くことも出来ます。
- ③ 個別報告要旨は，当日配付する資料等には収録しておりません。個別報告要旨は学会HPにアップし，大会期間中は受付場所で閲覧できるようにしておきます。
- ④ 個別報告希望者は，8月20日（火）23時までに，上記のURLアドレスを開いて，「地域農林経済学会個別報告申請フォーム」に必要事項を入力して下さい。また，フォームの「IX個別報告要旨のファイル（PDF形式に限る）を添付して下さい。」の欄では，参照のボタンをマウスでクリックし，すでに作成された要旨原稿ファイル（PDFファイル）を選択して下さい。
- ⑤ 一連の操作が終わりましたら，確認画面へのボタンをクリックして下さい。入力された事項が，一覧になって現れますので，入力ミスがあれば，戻るのボタンをクリックすれば，何度でも修正することが出来ます。もし，ミスがなければ，送信するのボタンをクリックして下さい。

- ⑥ 以上の結果、返信メールが、連絡先メールアドレスに送られる仕組みになっています。数時間たっても連絡先メールアドレスに、受付完了のメールが届かない場合には、再度申請をお願いいたします。
- ⑦ 返信メールにも入力一覧が掲載されています。もし、申請の訂正等がありましたら、
<ChiikiNourinKeizaiGakkai「@」gmail.com> までご連絡ください。
- ⑧ なお、「地域農林経済学会個別報告申請フォーム」入力に関する質問は、電話では一切受け付けていません。
- ⑨ 筆頭報告者は、本学会の会員に限られます。非会員の場合は、本学会HP<<http://a-rafe.org/>>の「会員・入会情報」から、入会申込書（PDF形式）をダウンロードし、必要事項をご記入の上、8月20日（火）午後5時（必着）までに、学会事務局あてに郵送ないしファックス送信してください。さらに、入会金1000円と学会費を、学会事務局の郵便貯金口座へ、8月20日（火）午後5時までに、学会事務局で振り込みが確認出来るように、手続きを済ませておいて下さい。
- ⑩大会セッションの報告者で、個別報告論文に投稿を希望する方は、個別報告者と同様の手続きを行って頂きます。

(3) 個別報告・大会セッションで使用するプレゼンテーション用ファイルの送付について

1) 個別報告および大会セッションで、パワーポイントあるいはPDFファイルを使用する場合

- ① 個別報告会場に備え付けのプロジェクターとPCで報告していただきます。
- ② PCのOSは、Windows7、パワーポイント用ソフトは、オフィス2007、PDF用ソフトは、AdobeReaderv.10.1.4です。送付される前に、上記のOS、ソフトで使用可能か、必ずご確認のうえ、お送り下さい。Windows7 以外をご利用の方は特にOSの違いにご留意ください。なお、上記のOS+ソフトをご使用でない方は、変換ミス等で使用できない等のトラブルに備えて、紙媒体も持参されることをお勧めします。事務局では、PCへの入力が不可能な場合でも、変換等のお手伝いはしません。
- ③ パワーポイント、PDFファイルのプレゼンテーション用原稿は、当日の混乱を避けるため、10月15日（火）23時までに、インターネット経由で提出してください。（時間厳守：事務多用のため、締切以降は受け付けません）。
- ④ 当該URLは、<<https://business.form-mailer.jp/fms/d36a77b222953>>です。パスワードを聞いてきますので、「20131015」と入力してください。
(当該パスワードは、極めて重要ですので、くれぐれも管理にご注意下さい。)
なお、本学会HPの「研究大会」－「個別報告－申し込み要項」からも上記URLにリンクしていますので、そちらから利用して頂くことも出来ます。
- ⑤ 会場でのPC使用の便宜のため、パワーポイント、PDFファイルには、下記のように名前を付けておいてください。
例) 報告者が、個別報告優秀賞に応募で、第1会場の第1報告の場合
パワーポイントの事例

(単独の場合) 特0101・農経花子.pptx

(複数の場合) 特0101・農経花子他.pptx

報告者が、一般報告で、第3会場の第6報告の場合

(単独の場合) 0306・農経花子.pptx

(複数の場合) 0306・農経花子他.pptx

- ⑥ 大会セッション報告については、コーディネーターが一括して送ってください。

パワーポイント、PDFファイルには、下記のように名前を付けておいてください。

例) 報告者が、第1セッションの第3報告の場合

パワーポイントの事例

(単独の場合) S0103・農経花子.pptx

(複数の場合) S0103・農経花子他.pptx

- ⑦ ファイルの容量の上限は、3MBです。3MBを超えるファイルは、受け付けることができませんので、図や写真を圧縮するような工夫をして下さい。

- 2) 個別報告および大会セッションで紙媒体を用いる場合

従来通り、聴講者数分の部数を用意して、当日報告会場に持参してください(事務局では印刷の斡旋はしません)。

- 3) OHPは利用できません。

- (4) 個別報告論文として投稿を希望する方へ

※今回から個別報告論文の投稿方法が変更される予定です。大きく変更される点は、投稿プロセスの電子化、テンプレートファイル利用必須化の2点です。詳細な投稿方法や原稿作成要領等については、学会HPを随時参照してください。

- ① 「地域農林経済学会大会個別報告論文投稿要領」(学会HPに掲載、以下、個別報告論文投稿要領と略す)の2にしたがって、「大会前提出原稿」を作成し、10月10日(木)23時までに(郵送の場合は消印有効)、個別報告座長宛てに1部送付(メールまたは郵送)して下さい。個別報告座長については、学会HPで確認してください(9月中頃掲載予定)。なお、大会後の個別報告論文の投稿の際には、テンプレートファイル利用が必須化される予定ですので、学会HPに掲載される「個別報告論文テンプレートファイル」を用いて、「大会前提出原稿」を作成することを推奨します。

- ② 併せて、「大会前提出原稿」は、10月10日(木)23時までに、インターネット経由で提出して下さい(PDFファイルに変換のこと)。

- ③ 当該URLは、<<https://business.form-mailer.jp/fms/45a8c42e22952>>です。

パスワードを聞いてきますので、「20131010」と入力してください。

(当該パスワードは、極めて重要ですので、くれぐれも管理にご注意下さい。)

なお、本学会HPの「研究大会」－「個別報告－申し込み要項」からも上記URLにリンクしていますので、そちらから利用して頂くことも出来ます。

- ④ PDFファイルには、下記のように名前を付けておいてください。

例) 報告者が、個別報告優秀賞に応募で、第1会場の第1報告の場合

(単独の場合) 特0101・農経花子.pdf

(複数の場合) 特0101・農経花子他.pdf

報告者が、一般報告で、第3会場の第6報告の場合

(単独の場合) 0306・農経花子.pdf

(複数の場合) 0306・農経花子他.pdf

- ⑤ 大会セッション報告については、個別報告論文に投稿を希望する報告者が、ファイルだけをインターネット経由で送ってください。

例) 報告者が、第1セッションの第3報告の場合

(単独の場合) S0103・農経花子.pdf

(複数の場合) S0103・農経花子他.pdf

- ⑥ ファイルの容量の上限は、3MBです。3MBを超えるファイルは、受け付けることができませんので、図や写真を圧縮するような工夫をして下さい。
- ⑦ 大会終了後に提出して頂くことになる個別報告論文の投稿方法・締め切り等については、大会前に学会事務局から投稿案内がメールにて送付される予定です。個別報告論文の書き方・提出方法等については、学会HPに掲載される「個別報告論文テンプレートファイル」および「個別報告論文投稿要領」に従ってください。なお、投稿プロセスの電子化、テンプレートファイル利用必須化のために「個別報告論文投稿要領」の改正を予定しています。
- ⑧ 連名報告での報告者の順位と、個別報告論文での執筆者の順位は、同じでなければなりませんので、ご注意ください。
- ⑨ 「個別報告論文テンプレートファイル」は9月中頃までに、改正された「個別報告論文投稿要領」は大会終了後に、それぞれ学会HP<<http://a-rafe.org/>>に掲載する予定です。

2. 個別報告優秀賞の応募方法について

- ① 個別報告優秀賞は、個別報告の中から優秀な論文を選考するものですから、報告は通常の個別報告と同様、個別報告会場で行っていただきます。
- ② したがって、個別報告優秀賞に応募される方は、まず、個別報告に申し込んでください。申し込み方法、プレゼンテーション用ファイルの送付方法、「大会前提出原稿」の送付方法等は、一般の個別報告に申し込まれる方と、まったく同じです（【別紙】1. (4) 参照）。なお、「大会前提出原稿」の提出が必須です。「大会前提出原稿」の提出がない場合には、一般報告扱いになりますので、ご注意下さい。
- ③ そのうえで、個別報告を申し込まれる際に、「地域農林経済学会個別報告申請フォーム」の質問項目のうち、【Ⅷ個別報告優秀賞への応募を希望しますか?】、【「はい」と希望した場合には、2014年4月1日時点での筆頭報告者の年齢を入力してください。】、【今回の応募は、研究論文等として投稿中の研究ではありませんね?】に、必要事項を記入し送信してください。なお、個別報告優秀賞への応募できるのは、2014年4月1日時点での筆頭報告者の年齢が37歳未満の場合です。また、すでに研究論文等として投稿中の研究は応募できません。ご注意下さい。

- ④個別報告優秀賞対象論文が、2010、2011年度において、優秀賞選考委員会から編集委員会に対して研究論文として推薦することになっていましたが、2012年度からこの制度は廃止されることになりました。

3. 個別報告、個別報告優秀賞に関する問い合わせ先

- (1) 個別報告の「申し込み」、個別報告優秀賞審査対象論文の「応募」に関する問い合わせ先
企画担当理事（神戸大学・伊庭治彦：iba「@」kobe-u.ac.jp）
*学会事務局では、問い合わせは受け付けておりません。

- (2) 個別報告「大会前提出原稿」に関する問い合わせ先
常任編集委員会（editors「@」a-rafe.org）
*学会事務局では、問い合わせは受け付けておりません。